



# 園だより 6月号

新宿区立西戸山幼稚園 令和8年5月29日発行

## 「たね」はたからもの

園長 佐藤 淳穂

今朝も A さんは園カバンを背負ったまま門の前で座り込んでいました。送ってきたお父さんとお母さんは「ほら、早く園長先生にごあいさつしましょう」と声を掛けるのですが、立ち上がろうとしません。「あった！」A さんが探していたものはサクランボの実でした。ぷっくりと膨らんで、黒く熟しています。一つ見つかるともっと探したくなるものです。「こっちにもあった！」A さんの小さな手には三つのサクランボが乗りました。

「おはようございます。今日は大きいのが落ちていたね」とあいさつをすると A さんはサクランボを握りしめ、園庭の先の保育室に走っていきました。満開の桜を見上げていたのは2か月ほど前のこと。いつのまにか青々とした葉が茂り、木陰をつくるようになりました。A さんはきっと明日もこの場所で「いいもの見つけた！」を楽しみ、やがて、いくら探しても見つからなくなったサクランボに季節が移ろいゆくことを感じるのでしょうか。

同じ日のこと。「これなんだろう？」B さんが持ってきたものは硬い小さな粒でした。「何かの種じゃないかな？」と私が言うと、「やっぱりそうか」という顔をして園庭に戻っていきました。少しして B さんが「またあったよ」と同じ種を繰り返し見つけてきました。その後、B さんは小さな鉢に土を入れてその数粒の種を埋めました。この粒はおそらく果肉が食べられてしまったサクランボの実の中の種です。いつか芽が出て、種の正体がわかる日が来るかもしれません。

5歳くらいになると、目の前の事象だけでなく、数週間、数か月という長期にわたって関心を寄せたり、これまでの経験から見通しをもって変化を想像したりすることができるようになります。AさんとBさんの宝探しの情報がつながったらサクランボの一生が見えたり鳥が木の実を食べる命のサイクルに気付いたりするかもしれません。夢中になって遊ぶ園生活の中に、学びの芽がたくさんあるのです。



集めたいろいろな種の瓶